

## 2014年度通常総会について

2014年度通常総会は2014年4月21日に開催され、以下の議案がすべて原案どおり承認されましたので、お知らせします。

- 第1号議案：2013年度事業報告の件
- 第2号議案：2013年度決算報告および監査報告の件
- 第3号議案：2014年度-2015年度役員承認の件
- 報告1：2014年度事業計画
- 報告2：2014年度取支予算

(第1号議案)

### 2013年度事業報告

事業番号：公1（1本のみ）

事業の内容：オペレーションズ・リサーチの研究・普及啓発を行う事業

#### 【研究発表会・シンポジウム等の開催】

##### □事業の趣旨・内容

本事業は、研究発表会・シンポジウム等を通じて、オペレーションズ・リサーチの研究および応用を促進し、オペレーションズ・リサーチの進歩と発達を通じて、文化と産業の発展に寄与することを目的とする。

#### 1. 研究発表会

- (1) 春季研究発表会を2013年3月5日、6日の両日、東京大学（本郷）にて開催した。  
発表件数128件 参加417人
  - ・特別テーマ 「つながるOR」
  - ・特別講演（一般公開）
    - 1) 「日本経済のゆくえ」  
野口悠紀雄（早稲田大学ファイナンス総合研究所 顧問）
    - 2) 「劣モジュラ構造に魅せられて」  
藤重 悟（近藤賞受賞者・京都大学 数理解析研究所 特任教授）
- (2) 秋季研究発表会を2013年9月11日、12日の両日、徳島大学（常三島）にて開催した。  
発表件数129件 参加316人
  - ・特別テーマ 「ツーリズムとOR」
  - ・特別講演（一般公開）
    - 1) 「最適化と計算の今後：大規模問題をどこまで解決できるのか？」  
藤澤克樹（研究賞受賞者・中央大学）
    - 2) 「四国の観光について」  
松田清宏（JR四国会長・四国ツーリズム創造機構会長）
    - 3) 「世界に羽撃く阿波踊り一踊る阿保でござる」  
踊る阿保の生重郎 四宮生重郎（踊る阿保の生重郎）

## 2. シンポジウム

- (1) 春季シンポジウムを2013年3月4日、政策研究大学院大学にて開催した。  
テーマ 「ORと最適化の最前線」 講演5件 参加者121人
- (2) 秋季シンポジウムを2013年9月10日、徳島大学（常三島）にて開催した。  
テーマ 「四国のオペレーションズ・リサーチ」 講演5件 参加者51人

## 3. ORセミナー

- ・第1回「待ち行列チュートリアル」を4月20日、(株)構造計画研究所本所新館にて開催した。参加者54名。
- ・コーディネーター／司会：斉藤 努 ((株)構造計画研究所)

題 名	講 師
1. 「M/M/1を越えて一準出生死滅過程への招待」	滝根哲哉 (大阪大学)
2. 「待ち行列分析のシミュレーション技法」	逆瀬川浩孝 (早稲田大学)
3. 「コールセンターのモデル化—待ち行列の視点から—」	河西憲一 (群馬大学)

- ・第2回「Excelで学ぶOR」を9月20日、(株)構造計画研究所本所新館にて開催した。参加者32名。
- ・コーディネーター／司会：斉藤 努 ((株)構造計画研究所)

題 名	講 師
基本編 (モデリングと定式化及びExcelソルバーの使い方)	藤澤克樹 (中央大学)
応用編1 (不確実性下の意思決定と評価のための方法論)	高野祐一 (東京工業大学)
応用編2 (都市・交通のデザインと計画・運用のための最適化手法)	安井雄一郎 (中央大学)

## 4. ORサロン

新運営方法検討中にて、本年はなし。

## 5. 企業事例交流会

- (1) 春季企業事例交流会（第31回）を春季研究発表会にて開催した。発表件数4件。
- (2) 秋季企業事例交流会（第32回）を秋季研究発表会にて開催した。発表件数4件。

## 6. 新宿OR研究会

昭和55年創設以来、年間10回の例会を開催しており、2014年2月例会が通算第335回。

テーマはOR関係の最近の動向に留まらず会員推薦の各界の話題など極めて広範、かつ時宜に適ったもので、メンバーの啓発、懇親を行っている。会誌・ホームページ・メールマガジンに開催案内を掲載し、新宿地区を中心に会員の幅広い参加を呼びかけている。現世話人は小池 清会員。

### 【機関誌、論文誌の刊行およびインターネット等を利用した情報提供活動】

#### □事業の趣旨・内容

本事業は、機関誌・論文誌の刊行およびインターネット等を利用した情報提供活動を通じて、オペレーションズ・リサーチの研究および応用を促進し、オペレーションズ・リサーチの進歩と発達を通じて、文化と産業の発展に寄与することを目的とする。

#### 1. 機関誌

機関誌「オペレーションズ・リサーチ」を下記のとおり発行した。

発行年月日	巻	号	発行部数
2013年3月1日	58	3	2,650部
2013年4月1日	58	4	2,650部
2013年5月6日	58	5	2,650部
2013年6月1日	58	6	2,650部
2013年7月1日	58	7	2,650部

2013年8月1日	58	8	2,650部
2013年9月1日	58	9	2,650部
2013年10月1日	58	10	2,650部
2013年11月1日	58	11	2,650部
2013年12月1日	58	12	2,650部
2013年12月28日	59	1	2,650部
2014年2月1日	59	2	2,650部

## 2. 論文誌

Journal of the Operations Research Society of Japan, 和文論文誌 (Transactions of the Operations Research Society of Japan) を下記のとおり発行した。

発行年月日	巻	号	発行部数
2013年3月	56	1	130部
2013年6月	56	2	130部
2013年9月	56	3	130部
2013年12月	56	4	130部
2013年12月(和文)	56		80部

### 【研究部会による調査研究とその公表活動】

#### □事業の趣旨・内容

本事業は、研究部会による調査研究とその公表活動を通じて、オペレーションズ・リサーチの研究および応用を促進し、オペレーションズ・リサーチの進歩と発達を通じて、文化と産業の発展に寄与することを目的とする。調査研究にあたっては、専門の研究部会を組成し、主査・幹事が中心となり研究希望者を公募して行っている。

	常設部会	主査, 幹事	メンバー	開催	内 容	場 所
1	待ち行列	小沢利久 (駒澤大学) 小林正弘 (東京理科大学)	27名	7回	7回の部会(講演15件)において、待ち行列及び関連分野の研究動向について意見交換を行った。延参加者157名。2013/4/20に2013年度第1回ORセミナー「待ち行列チュートリアル」を開催。	東京工業大学 大岡山キャンパス
2	数理計画 (RAMP)	加藤直樹 (京都大学) 藤澤克樹 (中央大学)	30名	1回	10月29・30日に第25回シンポジウムを開催した。数理計画・最適化の理論及び応用の最前線で活躍している13名の研究者を講演者として招いた。多くの研究者や学生が参加し、最先端の研究成果について情報交換を行った。延参加者110名。	鹿児島大学
3	評価のOR	関谷和之 (静岡大学) 筒井美樹 (電力中央研究所)	13名	5回	年5回の定例研究会を開き、毎回2名の講演者を招くことで、DEAを主にORでの評価手法・意思決定手法に関して計10件の講演を行った。また、OR学会春季・秋季発表会にて特別セッションを開催した。延参加者37名。	政策研究大学院大学
4	意思決定法	田地宏一 (名古屋大学) 西澤一友 (日本大学)	24名	5回	AHPを中心とした意思決定法に関する発表により、意思決定手法の理解を深め、企業や行政などの政策立案評価、マネジメントにおける適用性を高めることができた。5回計12件の講演を実施した。延参加者53名。	日本大学・ 桜門会館, 他

5	サプライチェーン戦略	高井英造 (フレームワークス) 草刈君子 (サイテック・ジャパン)	34名	8回	サプライチェーンにおける経営戦略, 実施戦略, 戦略的ビジネスプロセス, グローバルSCM, OR手法の適用について, 事例と理論の両面から研究する. 延参加者287名. <a href="http://scs.blog.so-net.ne.jp/">http://scs.blog.so-net.ne.jp/</a> 参照	青山学院大学・総研ビル
---	------------	--	-----	----	---	-------------

	研究部会	主査, 幹事	メンバー	開催	内容	場所
1	確率最適化モデルとその応用	穴太克則 (芝浦工業大学) 堀口正之 (神奈川大学)	14名	5回	今年度もDPに関するシンポジウムを開催し, 2日間延べ9件の講演. 待ち行列部会との共同開催の確率モデルシンポジウムでは当部会より5件発表. 国際会議参加もを積極的に行った. 計18件 延参加者125名.	東京理科大学, 上智大学, 他
2	サービス産業における最適化と意思決定	伊藤 健 (東北大学) 蓮池 隆 (大阪大学)	14名	5回 (内合同1回)	医療や安全など, 社会基盤サービスの向上を目指し, 情報技術を利用した新たな取組に関して, 活発な意見・情報交換を行った. 発表8件 延参加者47名.	近畿大学, 神戸学院大学, 琉球大学
3	先端マーケティング分析	鈴木秀男 (慶應義塾大学) 横山 暁 (帝京大学)	12名	8回	スキャンパネルデータ及びアパレル業のECサイトデータを提供した「データ解析コンペティション」開催. 学生・一般・課題設定部門合わせて38チームの参加者を交えて活発な討論を行った. 延参加者220人.	慶應義塾大学
4	最適化の理論と応用	牧野和久 (京都大学) 小林佑輔 (東京大学)	10名	7回 (内合同2回)	毎回2名の講演者を招き, 計7回の研究発表を行った. 6月に2日間に亘る合宿形式の研究会を行い, 2件の特別講演と28件の一般発表を行った. 延参加者255名.	東京大学, 筑波大学
5	数理的手法の展開と応用	金子宏之 (小松短期大学) 武市祥司 (金沢工業大学)	10名	5回 (内合同1回)	数理モデルをキーワードとして, 北陸地区において5回の研究集会を開催し, 計13件の研究報告があった. OR周辺領域からも講演者を招き, 理論から応用まで幅広いテーマについて議論し, 研究交流を行った. 延参加者73名.	金沢学院大学, 福井工業大学, 他
6	政治と社会と行政のOR	諸星穂積 (政策研究大学院大学) 田中健一 (電気通信大学)	15名	6回	毎回1-2名の講師を招き, 公共諸部門や社会システム全般における未開拓分野での問題解決, 意思決定, 政策の策定と評価等, ORの理論と手法の幅広い応用研究に関する発表を行っていただき, 参加者間で積極的な討論を行った. 延参加者53名	政策研究大学院大学
7	OR横断若手の会	福永拓郎 (国立情報学研究所) 谷川眞一 (京都大学)	9名	5回	本年度は5回の研究部会を開催し, 学生及び若手研究者によって, ORの様々な分野についての研究発表が行われた. 前年度卒業生による成果発表会や名古屋でも活発な研究交流が行われた. 延参加者79名.	京都大学
8	防衛と安全 (同一名称2期目)	丸山 明 (防衛省) 横谷大輔 (航空自衛隊)	20名	5回 (内合同1回)	防衛と安全に関する様々な問題について, 5回の研究会を開催, 計9件の発表. 国内・海外の様々な問題に対して産官学から幅広い意見があった. 延参加者105名.	政策研究大学院大学
9	サービスイノベーションへの数理的アプローチ	高木英明 (筑波大学) 雑賀憲彦 (名城大学)	20名	5回 (内合同1回)	サービス産業の生産性向上とイノベーションに向けて, 数理最適化や待ち行列等のオペレーションズ・リサーチの手法で問題の発見と解決を試みるテーマを中心に, ワークショップを含み5回, 16の発表. 延参加者141名.	筑波大学, 名城大学

10	持続可能社会のためのインフラストラクチャー戦略	三浦英俊 (南山大学) 鳥海重喜 (中央大学)	19名	11回	多国間にまたがるような大規模なインフラストラクチャーの構築や役割についてなどについてORの視点から取り組んだ。特に ①石油・天然ガス輸送における海上の安全 ②スーパーグリッド長距離電線網の2テーマで研究を推進した。延参加者103名。	日本GIF財団 会議室
11	食べものとOR	石井博昭 (関西学院大学) 関 宏理 (関西学院大学)	14名	5回 (内合同 2回)	今年度は5回の部会で講演10件を実施した。OR、情報システム、統計学など様々な分野の観点から食べものとORにおける研究に関し活発な議論を行った。延参加者61名。	関西学院大学、 他
12	不確実性システムにおける意思決定	木庭 淳 (兵庫県立大学) 小出 武 (甲南大学)	14名	5回 (内合同 1回)	不確実性を科学的に取り扱う古典的な手法や、それらの組合せによる発展などの講演を拝聴し、活発な意見交換、情報交換した。特に、配置問題・経済分析・ネットワーク等の最新情報を交換した。延参加者86名。	西宮大学交流 センター、他
13	複雑系とOR	木下正博 (北海道工業大学) 西川孝二 (北海道自動車短期 大学)	15名	5回 (内合同 1回)	複雑系工学と最適化問題の関係を明らかにするために、複雑系工学の最先端研究講師を招いて議論を行った。複雑な構造を持つ対象に対して、最適化の情報処理手法が有効であることが確認された。延参加者73名。	小樽商科大学 札幌サテライ ト
14	ORにおけるゲーム理論	渡辺隆裕 (首都大学東京) 梅澤正史 (東京理科大学)	10名	6回	ORの中におけるゲーム理論に焦点を当て、今年度は、経済学とORの両方の分野に関係する学際的で融合的な研究をしている講演者を招き研究会を行った。延参加者133名。	東京工業大学 大岡山キャン パス
15	OR普及のためのモチベーション教育	大堀隆文 (北海道工業大学) 加地太一 (小樽商科大学)	10名	5回 (内合同 1回)	従来とは異なる視点から、学会会員増強を主な目的とする研究部会で、一般には難解と思われるORを学ぼうとする人を増やす仕掛けについて研究する。発表6件、延参加者70名。	小樽商科大学 札幌サテライ ト

	研究グループ	主査、幹事	メンバー	開催	内 容	場 所
1	都市と地域のOR	大澤義明 (筑波大学) 石井儀光 (独)建築研究所)	50名	2回	サマー・セミナーを8月5日に筑波大学で開催し10件の発表と45名の参加者があった。ウィンター・ワークショップを12月14・15日南山大学で開催し28件の発表と72名の参加者があった。延参加者189名。	筑波大学、 南山大学

## 【表彰活動】

### □事業の趣旨・内容

本事業は、表彰活動を通じて、オペレーションズ・リサーチの研究および応用を促進し、オペレーションズ・リサーチの進歩と発達を通じて、文化と産業の発展に寄与することを目的とする。

### (春季表彰)

- (1) 第38回普及賞
  - ・八巻直一 (静岡大学)
  - ・尾崎俊治 (広島大学)
- (2) 第37回実施賞
  - ・大阪ガス 株式会社
- (3) 第14回業績賞
  - ・相澤りえ子 (元 (株)構造計画研究所)
  - ・山本芳嗣 (筑波大学)

## (秋季表彰)

- (1) 第3回研究賞
  - ・藤澤克樹 (中央大学)
- (2) 第2回研究賞奨励賞
  - ・蓮池 隆 (大阪大学)
  - ・佐久間 大 (広島商船高等専門学校)
  - ・フン ドック トゥアン (東京工業大学)
  - ・山下 真 (東京工業大学)
- (3) 第33回事例研究賞
  - ・鮭川矩義 (東京工業大学) ら8人
- (4) 第3回論文賞
  - ・関谷和之 (静岡大学) ら4人
- (5) 第31回学生論文賞
  - ・大井一輝 (修論 京都大学)
  - ・川出 静 (卒論 名古屋大学)
  - ・相馬 輔 (修論 京都大学)
  - ・田中彰浩 (修論 筑波大学)
  - ・橋本大樹 (卒論 東京大学)
  - ・胡 艶楠 (修論 名古屋大学)

## 【支部活動】

### (北海道支部)

活動	年月日	場所	内 容
総会	2013/3/29	北海道大学	2012年度事業報告, 決算, 2013年度事業計画, 予算, 役員
講演会	2013/12/13	小樽商大札幌サテライト	講演1: テーマ: 地域で育む学生の実践力 講演2: テーマ: VRとOR 参加者: 15名
講演会	2014/2/28	小樽商大札幌サテライト	講演1: テーマ: 鉄道事業と情報システム 講演2: テーマ: 企業システムにおけるビッグデータの実情と期待 参加者: 15名

### (東北支部)

活動	年月日	場所	内 容
総会	2013/3/28	東北大学	H24年度事業報告, H24年度決算, H25年度事業計画など
講演会	2013/3/28	東北大学	難波謙二氏「放射線が河川・湖沼・地下水や細菌・藻類に及ぼす影響について」
研究会	2013/6/19	東北大学	【震災と復興に関する連続セミナー第1回】 本間裕大氏「情報ネットワークの自律分散制御技術がもたらす持続可能社会への提案」
研究会	2013/10/9	東北大学	【震災と復興に関する連続セミナー第2回】 遠藤守也氏「東日本大震災 震災廃棄物の処理について」 石井博昭氏「競合的輸送問題とその応用」
研究会	2013/11/21	東北大学	【震災と復興に関する連続セミナー第3回】 岩根秀直氏「スマートシティへの展開に向けたピーク電力削減技術」 渡邊 勇氏「電力系統の事故復旧操作を支援する最適復旧計画手法」



研究会	2013/12/7	秋田県田プラザホテル山麓荘	【震災と復興に関する連続セミナー第4回】 澤木勝茂氏「電力需要安定化のための収益管理モデルとその最適政策について」
研究会	2014/2/24	東北大学	【震災と復興に関する連続セミナー第5回】 河野幸夫氏「千年前の貞観地震津波と平成の大津波、そして仙台湾海底遺跡発見の関連性について—今後発生する災害の長期予測と短期予測—」

### (中部支部)

活動	年月日	場所	内 容
総会	2013/3/9	中部品質管理協会	2013年度事業・予算・役員承認
支部研究発表会	2013/3/9	中部品質管理協会	13件の発表、参加者約52名
特別講演	2012/3/9	中部品質管理協会	講師：田畑吉雄（南山大学） 題目：ORとファイナンスにおける幾つかの停止問題 参加者約52名
第10回 中部支部シンポジウム	2013/9/20	愛知県立大学サテライト（ウインクあいち15階）	テーマ「機械学習とデータマイニングによる知識発見」 講演者：大輪拓也（国立情報学研究所）鈴木英明（（株）日立製作所 日立研究所）河原吉伸（大阪大学 産業科学研究所）宇野毅明（国立情報学研究所） 参加者58名
支部研究会	2013/12/1	金沢学院大学サテライト教室	講師：橋本英樹（名古屋大学） 題目：「時間枠付き配送計画問題に対する発見的解法」 講師：鈴木敦夫（南山大学） 題目：「愛知医科大学病院での麻酔科医勤務スケジュール作成支援システムの試作について」 参加者14名
支部講演会	2013/12/7	名城大学名駅サテライト	講師：関谷和之（静岡大学） 題目：最短距離DEAとプログラムコンテスト「敢闘賞」決定への適用 講師：中田友一（中京大学） 題目：金平糖とOR 参加者25名

### (関西支部)

活動	年月日	場所	内 容
記念講演会	2013/3/30	学校法人常翔学園大阪センター	加藤直樹氏（京都大学）により「組合せ剛性理論の最近の進歩と応用」という演題で講演を行い、25名の参加者があった。
総会	2013/3/30	学校法人常翔学園大阪センター	2012年度事業報告・決算および2013年度事業計画・予算などが承認された。参加者は25名であった。
支部研究講演会	2013/7/13	キャンパスポート大阪	「ビッグデータ時代のビジネス・アナリティクス」というテーマで4件の講演を行い、25名の参加者があった。
支部事業（研究実践者交流会）	2013/11/16	大阪大学中之島センター	「異文化コミュニケーションによる最適化の広がり～最適化研究者のサイドストーリー～」というテーマで4件の講演を行い、38名の参加者があった。

### (中国・四国支部)

活動	年月日	場所	内 容
総会	2013/3/28	広島経済大学	平成24年度活動・決算報告、 平成25年度支部役員・活動予定・予算の報告
講演会	2013/3/28	広島経済大学	講師：上野信行氏（県立広島大学）

講演会	2013/8/2 2013/9/20	広島大学	研究部会「広島サマーセミナー2013」主催分
シンポジウム	2013/10/26 2013/10/27	きらら交流館（山口県）	九州支部，中国・四国支部 支部事業「九州・中国・四国地区における若手OR研究交流会」
講演会	2013/9/6 2013/11/20	鳥取大学	研究部会「プロジェクトマネジメントと最適化」主催分
講演会	2013/11/26	広島大学	講師：Dr. Richard Arnold (Victoria University of Wellington, New Zealand)
講演会	2014/3/4	徳島大学	講師：竹内 博氏（四国大学）
講演会	2014/3/12	鳥取大学	講師：Keith W. Hipel氏（ウォータールー大学ユニバーシティプロフェッサー，カナダ科学アカデミー会長）
講演会	2014/3/15 2014/3/22	広島経済大学	研究部会「SCM&サービス工学」主催分
			その他，協賛事業3件

### （九州支部）

活動	年月日	場所	内 容
総会	2013/3/23	九州大	H24年度活動報告，H25年度活動計画，17名参加。
講演会	2013/3/23	九州大	渡辺美智子氏（慶應義塾大学院）「21世紀型スキルの育成と教育改革：統計教育の視点から」，18名参加。
講演会	2013/7/20	九工大 サテライト	牛房義明氏（北九州市立大）「ダイナミックプライシングによる電力消費の分析」，18名参加。
研究会	2013/7/20	北九大	2件の研究発表，今若狭徹氏（九工大院），笛田 薫氏（岡山大院），18名参加。
交流会	2013/10/26 ～10/27	きらら交流館	1泊2日合宿形式の九州・中国・四国地区における若手研究者中心の交流会，16件の研究発表，27名参加。
講演会	2013/10/27	きらら交流館	井上真二氏（鳥取大院）「ソフトウェア信頼性評価におけるブートストラップ法の適用」，27名参加。
講演会	2013/12/7	九州大 西新プラザ	中尾芳隆氏（キヤノンITソリューションズ）「数理技術を活用した生産・物流の最適化事例」，15名参加。
研究会	2013/12/7	九州大 西新プラザ	2件の研究発表，脇 隼人氏（九州大IMI），柳 永珍氏（福岡大），15名参加。

### 【会議】

#### （1）通常総会

開催年月日	議 事 事 項	結 果
2013.4.26 （（株）構造計画 研究所）	1. 2012年度事業報告の件 2. 2012年度収支計算報告および監査報告の件 3. 2013年度-2014年度役員承認の件 4. 2013年度新名誉会員承認の件 5. 定款・規程変更の件	承認 〃 〃 〃 〃

#### （2）理事会（略）

### 【役員】

理事（非常勤）

定数：12人から18人（現在：18人）

任期：2年

監事（非常勤）

定数：2人（現在：2人）

任期：2年

2013年度末現在



【職員】(略)

【会員状況】

2013年度入退会状況

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員A	賛助会員B	合計
2013.2.29	11	1807	181	38 (47)	19 (19)	2056 (66)
入会		39	135	3 (3)		177 (3)
退会		▲104	▲17	▲4 (4)	▲1 (1)	▲126 (5)
移動	学→正	17	▲17			
	正→学	▲5	5			
	正→名	1	▲1			
資格喪失		▲25				▲25
復活		2	1			3
2013年度累計 純増減	1	▲77	107	▲1 (▲1)	▲1 (▲1)	29 (▲2)
2014.2.28現在	12	1730	288	37 (46)	18 (18)	2085 (64)

( ) 内は口数

2014.2.28 支部別会員数

支部	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員A	賛助会員B	合計	前年比	
							個	賛
北海道	0	51	4	1	0	56	4	—
東北	1	65	4	0	0	70	4	—
中部	0	150	40	1	1	192	18	—
関西	2	238	44	5	0	289	7	1
中四国	0	103	18	1	0	122	7	—
九州	0	84	22	0	0	106	▲4	—
本部	9	1039	156	29	17	1250	▲5	▲3
合計	12	1730	288	37	18	2085	31	▲2

## 貸借対照表

平成26年2月28日現在

(単位:円)

科 目	当年度
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	25,049,466
未収会費	1,319,000
未収金	866,775
前払金	249,480
前払費用	701,270
流動資産合計	28,185,991
2. 固定資産	
(1) 特定資産	
退職給付引当資産	711,200
名簿作成準備積立金資産	500,000
国際協力積立金資産	15,000,000
表彰事業積立金資産	7,000,000
OA化積立金資産	8,380,000
OR事典積立金資産	4,000,000
特別研究積立金資産	5,000,000
近藤賞基金引当資産	11,102,069
公益事業充当資産	20,000,000
創立60周年記念事業準備資産	15,000,000
ICCOPT東京積立資産	5,000,000
リース資産	1,481,760
特定資産合計	93,175,029
(2) その他固定資産	
保証金	950,400
その他固定資産合計	950,400
固定資産合計	94,125,429
資産合計	122,311,420
II 負債の部	
1. 流動負債	
未払費用	225,860
前受金	2,559,447
前受会費	21,166,000
預り金	123,050
未払消費税等	267,600
流動負債合計	24,341,957
2. 固定負債	
退職給付引当金	711,200
リース債務	1,452,150
固定負債合計	2,163,350
負債合計	26,505,307
III 正味財産の部	
1. 指定正味財産	
指定正味財産合計	5,000,000
(うち特定資産への充当額)	(5,000,000)
2. 一般正味財産	
(うち特定資産への充当額)	(87,463,829)
正味財産合計	95,806,113
負債及び正味財産合計	122,311,420

正味財産増減計算書

平成25年3月1日から平成26年2月28日まで

(単位:円)

科 目	当年度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
特定資産運用益	17,872
受取利息	17,872
受取入会金	300,600
受取正会員入会金収入	218,400
受取学生会員入会金収入	82,200
受取会費	31,640,200
正会員受取会費収入	25,603,200
学生会員受取会費収入	470,000
賛助会員受取会費収入	5,567,000
事業収益	15,641,477
受取販売収益	2,851,424
受取研究発表参加収入	3,641,000
受取参加料	1,887,000
受取広告料	5,162,600
受取受託料	1,360,000
受取掲載料	556,500
受取著作権料	182,953
受取補助金等	636,750
受取寄付金	0
雑収益	136,296
受取利息	4,572
雑収益	131,724
経常収益計	48,373,195
(2) 経常費用	
事業費	33,608,933
給与手当	3,045,379
賞与	1,127,722
臨時雇賃金	3,312,261
法定福利費	13,632
福利厚生費	0
旅費交通費	974,562
通信運搬費	2,747,331
退職給付費用	182,880
消耗品費	1,438,528
会議費	2,774,190
印刷製本費	7,484,100
広告宣伝費	38,850
賃借料	2,694,384
保険料	27,855
租税公課	259,800
諸謝金	4,290,271
委託費	2,150,820
支払手数料	357,930

減価償却費	382,158
貸倒損失	306,280
雑費	0
管理費	4,388,286
給与手当	338,373
賞与	125,302
臨時雇賃金	292,896
法定福利費	1,514
福利厚生費	0
旅費交通費	550,412
通信運搬費	294,770
退職給付費用	20,320
消耗品費	41,275
会議費	290,850
印刷製本費	18,952
修繕費	47,880
賃借料	299,376
保険料	3,095
租税公課	9,950
水道光熱費	223,885
委託費	441,000
支払手数料	57,935
支払報酬料	380,625
諸会費	560,925
減価償却費	42,462
貸倒損失	241,920
雑費	104,569
経常費用計	37,997,219
評価損益等調整前当期経常増減額	10,375,976
評価損益等計	0
当期経常増減額	10,375,976
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	10,375,976
一般正味財産期首残高	80,430,137
一般正味財産期末残高	90,806,113
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	5,000,000
指定正味財産期末残高	5,000,000
III 正味財産期末残高	95,806,113

## 2014-2015年度役員承認の件

(第3号議案)

会務役職	非改選役員	新役員
会長		大宮英明 (三菱重工業(株))
副会長	加藤直樹 (京都大学)	室田一雄 (東京大学)
	出馬弘昭 ((株)オーグス総研)	
庶務	松林伸生 (慶應大学)	土屋利明 (日本電信電話(株))
国際	岩田 覚 (東京大学)	
研究普及	鈴木 勉 (筑波大学)	樫尾 博 (東京ガス(株))
編集	池上敦子 (成蹊大学)	水野眞治 (東京工業大学)
会計		渡辺隆裕 (首都大学東京)
渉外		伊藤大雄 (電気通信大学)
広報		米沢 隆 (日本IBM(株))
支部	廣瀬英雄 (九州工業大学)	
無任所		古川哲也 (九州大学)
	鈴木恵二 (北海道大学)	市川雅也 (MHIエアロスペースシステムズ(株))
監事	高木英明 (筑波大学)	桑畑暁生 (一般財団法人 電力中央研究所)

事業番号：公1（1本のみ）

事業の内容：オペレーションズ・リサーチの研究・普及啓発を行う事業

### 【研究発表会、シンポジウム等の開催】

#### □事業の趣旨・内容

本事業は、研究発表会、シンポジウム、ORセミナー、ORサロン、企業事例交流会等の活動を通じて、オペレーションズ・リサーチの研究および応用を促進し、オペレーションズ・リサーチの進歩と発達を通じて、文化と産業の発展に寄与することを目的とする。

#### □2014年度計画

##### 1. 研究発表会

- ◇春季発表会：2014年3月6-7日 大阪大学豊中キャンパスにて 参加数予定380名  
特別テーマ「新時代ノビジネスとOR」実行委員長 森田 浩（大阪大学）
- ◇秋季発表会：2014年8月28-29日 北海道科学大学 参加数予定300名  
特別テーマ「未定」実行委員長 大堀隆文（北海道科学大学）

##### 2. シンポジウム

- ◇春季シンポジウム：2014年3月5日 大阪大学 豊中キャンパスにて 参加数予定79名  
テーマ「ICTとOR—拓がる学際領域—」シンポジウム委員長 滝根哲哉（大阪大学）
- ◇秋季シンポジウム：2014年8月27日 北海道科学大学 参加数予定50名  
特別テーマ「未定」実行委員長 加地太一（小樽商科大学）

##### 3. ORセミナー

- ◇第1回：2014年4月19日（株）構造計画研究所本所新館 参加数予定39名  
テーマ「DEAチュートリアル」コーディネーター 斉藤 努（（株）構造計画研究所） 講師4名
- ◇第2回：日時 未定（株）構造計画研究所本所新館  
テーマ・ コーディネーター 等「未定」

##### 4. ORサロン

従来から年3~4回「企業経営戦略」を中心に講師招聘し、会員サービスの一環として継続してきたが、現在新たな「ORサロン」検討中にて、具体的計画は未定

##### 5. 企業事例交流会

- ◇春季企業事例交流会：2014年3月6-7日 大阪大学豊中キャンパスにて
  - ◇秋季企業事例交流会：2014年8月28-29日 北海道科学大学にて
- 共に、「アプリケーション発表事例増」の動きと協調して新展開を試行する。

##### 6. 支部の活動を通じた研究会、シンポジウム等

各支部においても例年どおりの研究・普及啓発活動を展開する。

### 【機関誌、論文誌の刊行およびインターネット等を利用した情報提供活動】

#### □事業の趣旨・内容

本事業は、機関誌、論文誌の刊行およびインターネット等を利用した情報提供活動を通じて、オペレーションズ・リサーチの研究および応用を促進し、オペレーションズ・リサーチの進歩と発達を通じて、文化と産業の発展に寄与することを目的とする。



## 1. 機関誌

- ◇発行回数：毎月1回年12回
- ◇発行号：59巻3号～60巻2号
- ◇発行総数：32,400部

## 2. 論文誌

- ・ Journal of Operations Research Society of Japan (英文論文誌)
  - ◇発行回数：年4回
  - ◇発行号：57巻1号～57巻4号
  - ◇発行総数：480部
- ・ Transactions of Operations Research Society of Japan (和文論文誌)
  - ◇発行回数：年1回
  - ◇発行号：57巻
  - ◇発行総数：60部

## 3. ウェブサイトの充実

昨年度は「社団法人」から「公益社団法人」への変更と英文案内を充実させた。今年度も引き続き、使い易さ・見易さの追求と会員勧誘とサービス増大に繋げる。

## 4. OR事典Wikiの充実

学会が提供する事典の利用価値向上を目的として、必要な編集と追補を行う。

## 5. メーリングリストの活用

学会員が主体となって活発な情報交換の場として機能しているが、登録者数拡大に向けて引き続き登録キャンペーンを強化して行く。

## 6. メールマガジンの充実

月2回の発行が堅持されており、さらに他学会情報も含め内容の充実化に努める。

## 【研究部会による調査研究とその公表活動】

### □事業の趣旨・内容

本事業は、研究部会による調査研究とその公表活動を通じて、オペレーションズ・リサーチの研究および応用を促進し、オペレーションズ・リサーチの進歩と発達を通じて、文化と産業の発展に寄与することを目的とする。調査研究にあたっては、専門の研究部会を組成し、主査・幹事が中心となり研究希望者を公募して行っている。昨年度より、部会活動補助金を倍増している。

### 〈常設部会〉

- |               |                            |                            |
|---------------|----------------------------|----------------------------|
| 1. 待ち行列       | 主査：三好直人（東京工大）              | 幹事：井家 敦（神奈川工科大）            |
| 2. 数理計画（RAMP） | 主査：松井知己（東京工大）              | 幹事：清見 礼（横浜市立大）             |
| 3. 評価のOR      | 主査：関谷和之（静岡大）               | 幹事：筒井美樹（(一財)電力中央研究所）       |
| 4. 意思決定法      | 主査：田地宏一（名古屋大）              | 幹事：西澤一友（日本大）               |
| 5. サプライチェーン戦略 | 主査：米沢 隆<br>（日本アイ・ビー・エム(株)） | 幹事：草刈君子<br>（(株)サイテック・ジャパン） |

### 〈部会〉

- |                           |               |               |
|---------------------------|---------------|---------------|
| 1. 最適化の理論と応用              | 主査：牧野和久（京都大）  | 幹事：小林佑輔（東京大）  |
| 2. 数理的手法の展開と応用            | 主査：金子宏之（小松短大） | 幹事：武市祥司（金沢工大） |
| 3. サービス・イノベーションへの数理的アプローチ | 主査：高木英明（筑波大）  | 幹事：雑賀憲彦（名城大）  |
| 4. 大規模インストラクチャーのOR        | 主査：三浦英俊（南山大）  | 幹事：鳥海重喜（中央大）  |

- |                      |                   |                               |
|----------------------|-------------------|-------------------------------|
| 5. 食べものとOR           | 主査：石井博昭（関西学院大）    | 幹事：関 宏理（関西学院大）                |
| 6. 不確実性システムにおける意思決定  | 主査：木庭 淳（兵庫県立大）    | 幹事：小出 武（甲南大）                  |
| 7. 複雑系とOR            | 主査：木下正博（北海道工大）    | 幹事：西川孝二（北海道自動車短大）             |
| 8. ORにおけるゲーム理論       | 主査：渡辺隆裕（首都大東京）    | 幹事：梅澤正史（東京理科大）                |
| 9. OR普及のためのモチベーション教育 | 主査：大堀隆文（北海道工大）    | 幹事：加地太一（小樽商大）                 |
| 10. 安全・安心・強靱な社会とOR   | 主査：神藤 猛（千葉大）      | 幹事：横谷大輔（航空自衛隊）                |
| 11. 確率最適化モデルとその応用    | 主査：穴太克則（芝浦工大）     | 幹事：吉良知史（東北大）<br>幹事：堀口正之（神奈川大） |
| 12. 公共的社会システムとOR     | 主査：諸星穂積（政策研究大学院大） | 幹事：田中健一（電気通信大）                |
| 13. 信頼性              | 主査：土肥 正（広島大）      | 幹事：肖 霄（首都大東京）                 |
| 14. ビッグデータとマーケティング分析 | 主査：鈴木秀男（慶應大）      | 幹事：高野祐一（東京工大）<br>幹事：横山 暁（帝京大） |
| 15. リーンマネジメントシステム    | 主査：中島健一（神奈川大）     | 幹事：蓮池 隆（大阪大）                  |

#### 〈研究グループ〉

- |             |              |                   |
|-------------|--------------|-------------------|
| 1. 都市と地域のOR | 主査：大澤義明（筑波大） | 幹事：石井儀光（(独)建築研究所） |
|-------------|--------------|-------------------|

#### 【表彰活動】

##### □事業の趣旨・内容

本事業は、表彰活動を通じて、オペレーションズ・リサーチの研究および応用を促進し、オペレーションズ・リサーチの進歩と発達を通じて、文化と産業の発展に寄与することを目的とする。

授賞件数は例年並みを想定している。

##### 〈春季表彰〉 2月末までに審査・承認予定

- |             |          |
|-------------|----------|
| 1. 近藤賞      | 今年度は募集なし |
| 2. 業績賞      | 1～2件予定   |
| 3. 普及賞      | 1～2件予定   |
| 4. 実施賞      | 1～2件予定   |
| 5. フェロー称号授与 | 数件予定     |

##### 〈秋季表彰〉 4月以降審査・決定予定

- |           |        |
|-----------|--------|
| 1. 研究賞    | 1件予定   |
| 2. 研究賞奨励賞 | 4件程度予定 |
| 3. 事例研究賞  | 1～2件予定 |
| 4. 論文賞    | 1件予定   |
| 5. 学生論文賞  | 5件程度予定 |

#### 【その他】

□2012年10月に発足した「学会活性化委員会」を中心に、更なる研究・普及の深化と会員増強に努める。

□学会財政好転化により、「研究部会補助金倍増化」「学生会員年会費無料化」は継続する。

□2017年度の学会創立60周年記念事業に向けて、議論・準備を開始させる。

## 2014年度収支予算

(報告 2)

平成 26 年 3 月 1 日から平成 27 年 2 月 28 日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計		法人会計	内部取引 控除	合計
	公 1 研究・普及啓発	小計			
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
特定資産運用益	27,000	27,000	3,000	0	30,000
特定資産受取利息	27,000	27,000	3,000		30,000
受取入会金	51,750	51,750	8,250	0	60,000
受取正会員入会金	21,750	21,750	8,250		30,000
受取学生会員入会金	30,000	30,000	0		30,000
受取会費	20,988,000	20,988,000	6,612,000	0	27,600,000
受取正会員会費収入	15,428,000	15,428,000	6,612,000		22,040,000
受取学生会員会費収入	740,000	740,000	0		740,000
受取賛助会員会費収入	4,820,000	4,820,000	0		4,820,000
事業収益	12,270,000	12,270,000	0	0	12,270,000
受取販売収益	2,270,000	2,270,000	0		2,270,000
受取参加料	4,000,000	4,000,000	0		4,000,000
受取広告料	4,500,000	4,500,000	0		4,500,000
受取受託料	1,000,000	1,000,000	0		1,000,000
受取掲載料	300,000	300,000	0		300,000
受取著作権料	200,000	200,000	0		200,000
受取補助金	80,000	80,000	0		80,000
雑収益	950,000	950,000	10,000	0	960,000
受取利息	0	0	10,000		10,000
雑収益	950,000	950,000	0		950,000
<b>経常収益計</b>	<b>34,366,750</b>	<b>34,366,750</b>	<b>6,633,250</b>	<b>0</b>	<b>41,000,000</b>
(2) 経常費用					
事業費	34,334,400	34,334,400		0	34,334,400
給料手当	2,825,100	2,825,100			2,825,100
臨時雇賃金	3,181,000	3,181,000			3,181,000
賞与	1,242,000	1,242,000			1,242,000
退職給付費用	171,000	171,000			171,000
福利厚生費	594,000	594,000			594,000
会議費	2,190,000	2,190,000			2,190,000
旅費交通費	1,850,000	1,850,000			1,850,000
通信運搬費	2,970,000	2,970,000			2,970,000
減価償却費	0	0			0
消耗品費	1,455,000	1,455,000			1,455,000
印刷製本費	7,200,000	7,200,000			7,200,000
賃借料	2,679,300	2,679,300			2,679,300
減価償却費	370,800	370,800			370,800
保険料	4,500	4,500			4,500
諸謝金	4,300,000	4,300,000			4,300,000
委託費	2,310,000	2,310,000			2,310,000
支払手数料	193,500	193,500			193,500

貸倒損失	480,000	480,000			480,000
雑費	318,200	318,200			318,200
管理費			6,665,600	0	6,665,600
給料手当			313,900		313,900
臨時雇賃金			350,000		350,000
賞与			138,000		138,000
退職給付費用			19,000		19,000
福利厚生費			66,000		66,000
会議費			310,000		310,000
旅費交通費			650,000		650,000
通信運搬費			30,000		30,000
消耗什器備品費			0		0
消耗品費			45,000		45,000
賃借料			297,700		297,700
減価償却費			41,200		41,200
保険料			500		500
水道光熱費			250,000		250,000
租税公課			350,000		350,000
委託費			690,000		690,000
支払手数料			21,500		21,500
支払報酬			550,000		550,000
諸会費			550,000		550,000
貸倒損失			720,000		720,000
雑費			1,272,800		87,200
<b>経常費用計</b>	<b>34,334,400</b>	<b>34,334,400</b>	<b>6,665,600</b>	<b>0</b>	<b>41,000,000</b>